

①日本一に選ばれた千里浜なぎさドライブウェイの戦略的PRについて

【質問】世界最大の旅行サイト「トリップアドバイザー」で、本市の千里浜なぎさドライブウェイが日本のベストビーチ1位、つまり日本一に選ばれた。しかし表記がバラバラで全く統一されていない。名称を統一し、それをしっかり使用するように周知していただきたい。

【市長答弁】今まで特段の取り決めがなかった。今後は統一し、使用するよう取り組んでいく。

【質問】「羽咋」を表記する際、読めないからとひらがなにすることなく、ふりがなやかっこ書き、ローマ字表記も付けた上で、少しでも広く知られるように努力していただきたい。

【市長答弁】「羽咋」の名称を情報発信する際には、漢字かふりがなのどちらが効果的かを考慮し、併記する方法も取り入れる。

【質問】道の駅の名称は「千里浜」の3文字を入れる事を条件にしていいただきたい。

【市長答弁】条件については特段設けずに、広く自由な発想で応募いただきたいと考えている。

【質問】羽咋市をさまざまな形でPRしていくにあたり、統一したコンセプトがないと、ホームページもパンフレットも看板も、表記もデザインもバラバラになり、無秩序で雑然とした印象のまちなりかねない。デザイン・写真・フォント(字体)などのビジュアルイメージの統一性と活用を。

【商工観光課長答弁】統一ビジュアルイメージを持たせることは、対外的に情報を発信する際の認知度の向上や他との差別化による地域の優位性、信頼度向上に寄与する点などから大変重要だ。道の駅のPRや商品開発をはじめ、ジビエや自然栽培などの推進に向け、統一感のあるビジュアルデザインの活用を専門家の力を借りながら進めていく。

【質問】横断幕、名刺や封筒などの印刷物、ホームページなどあらゆる媒体を活用し、積極的に露出していただきたい。

【市長答弁】観光ポスターやパンフレット、看板設置などさまざまな手法、媒体を活用しながらPRしていく。ホームページ、フェイスブック、メールの署名欄なども活用しながら情報発信に努める。観光ポスターやパンフレットへのシールの添付、市役所や羽咋駅などで看板設置などを検討する。

【質問】増加するインバウンド(訪日外国人旅行)およびサイクリスト(サイクリングをする人)を想定した準備対応を。

【市長答弁】外国人観光客はもとより多

くのサイクリストを受け入れるための体制づくりを進めることで、一層の観光振興を図っていく。

②羽咋市まち・ひと・しごと創生本部をはじめとする組織機構について

【質問】目的とされていた各課の連携、組織の活性化と組織力の向上は、施行前と比べてどういう効果があり、またどういう課題があるか。情報の共有、意思の疎通、意思決定のスピードは向上したか。

【市長答弁】業務量の多寡や課の枠を超えた連携業務において、職員の応援、協力体制を整え、行政課題にスピード感を持って対応してきた。一方、全庁にまたがる行政課題に対し、各部長が部の垣根を超えた指示、指導を出しにくい状況も時折見受けられた。次年度は全庁挙げた羽咋創生の司令塔を担っていく。

【総務部長答弁】各部局を束ねる部長と意思疎通を行いながら、国の交付金を満額獲得するなどスピード感を持って対応できた。一方、指示を待つ職員の体制が固定してしまうというおそれを少し感じている。

【産業建設部長答弁】羽咋創生に伴う連携、協力は次年度以降も必要不可欠だ。次年度は、部内外のつながりをこれまで以上に強化し、道の駅設立業務や6次産業の推進に取り組んでいく。

【市民福祉部長答弁】常に情報を共有すると共に、お互いの進行状況を確認し、職員の応援、協力体制を取りながら制度の円滑な導入に取り組んできた。市民から信頼される窓口対応を行うことができるよう職員の指導、育成を図っていく。

【質問】地域おこし協力隊における求める人物像、期待する役割、判断方法は。

【市長答弁】任期終了後も本市に定住し、市や地域と共に本市の活性化を実現し、隊員本人が自立、自活できる方だ。市と共通の理念と情熱を持って施策、事業の推進を担ってほしい。書類選考、面接などにより多面的に見極める。

【質問】面接官には、もし隊員が自然栽培担当であれば、現在の地域おこし協力隊の方、農家さん、JAの担当職員にもお願いする必要があると考えるが、見解は。

【市長答弁】JAは欠かせないパートナーと考えている。農業者や地域おこし協力隊員については経験と知識を有しているが、面接官については検討課題だ。

【質問】民間企業や大学、地元の高校にも働きかけ、学生・生徒たちにも積極的に羽咋の施策に関わってもらうことで、羽咋を好きになり、これからも羽咋に残る、あるいは羽咋に帰ってくるようにしていただきたい。民や学に対して、積極的に連携を求

めていただきたい。

【市長答弁】さまざまな機会を通じて本市の現状、課題、問題、その対策を提示し、本市の総合戦略の推進に協力、参画いただける方々と積極的に連携する。

【質問】ふるさと寄付金において、例えば「教育No.1の羽咋市を目指し、アクティブラーニングを通じた学力向上のため、全小中学校へのタブレット配布プロジェクト」や、「再び朱鷺が羽ばたく羽咋市を目指して！生物多様性を守り持続可能な環境作りのための世界農業遺産推進プロジェクト」など、具体的でストーリー性のある寄付金の用途にしては。

【市長答弁】寄付金の詳細な使い道を公表し用途を明確にすることは、企業の賛同を得る上で有効である。議員ご指摘の用途を含め、検討していく。

③学校給食における自然栽培をはじめとする地産地消の推進について

【質問】野菜は7月から11月に集中して生産されることから、夏休み前後は、自然栽培週間、あるいは自然栽培月間として、自然栽培の農産物をさらに使用してもらうように努力していただきたい。

【教育長答弁】学校給食の献立に対応できる量の確保に努め、補助事業も活用しながら積極的に学校給食の献立に取り入れる。

【質問】市内の認定子ども園等の給食も、できるだけ自然栽培の農産物を使用してもらうように働きかけていただきたい。

【市長答弁】公立保育所をはじめ民間保育所や認定こども園においても給食に自然栽培の農産物を取り入れるよう働きかけていく。

【質問】学校給食のパンを、おいしくて安全で栄養価の高い自然栽培の米粉、もしくは能登米など、地元の米を使って、そして地元のお店で生産していただき提供できないか。

【教育長答弁】給食数に対応できる量や価格もあり、検討課題だ。

【質問】牛乳はアレルギーを持つ子の代替食と同様の考えに基づき、地元の玄米からできたライスミルクや、地元のはと麦茶などの選択肢も検討していただきたい。

【教育長答弁】栄養面、価格面および生産体制を考慮する必要があり、検討課題だ。

【質問】今回の学校給食における大きな反響を受けて、給食における助成の可能性は。

【市長答弁】議員ご指摘のとおり大きな反響があった。自然栽培農産物の普及状況等を考慮しながら、継続の検討をしていく。